

カトリック 仙台教区報

2011年7月24日 No.200 特別号

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

仙台教区「新しい創造」開幕

「常に新しい創造へ」
主において私たちはひとつ

カトリック宮城県大会

キリストによって「常に新しく創造」されている私たちは、今こそ絆を強め、この大震災によって被災した人々の心を生き、励まし、つなぎ、支え、寄り添う教会として歩み始めた。そのことを確認し、具体的な歩みを踏み出す「カトリック宮城県大会」が7月3日(日)、仙台白百合学園ロザリオのマリア聖堂で開催された。(関連記事2p、7p)大会の冒頭、仙台教区長 平賀徹夫司教は、「仙台教区 新しい創造」の主旨について話し、参加者を励ました。

仙台教区の神の子ら、光の子ら 力強く再び歩み出す機会としたいのである皆さん。「仙台教区 新しい」と願い、開催することにいたしました。創造・宮城県大会へようこそお出でくださいました。

これから1年、今年9月に福島県大会、来年6月に青森県大会、7月に岩手県大会が予定されています。各県での大会という形をとっていますが、すべて仙台教区としての大会です。

最初の企画は「仙台教区創立75年」「函館教区から120年」という機会にあたり、「仙台教区年」として考えたのです。

しかし、あの3月11日の大震災「中止してはどうか」という思いがあったことも確かです。

この大災害の中にあるからこそ、今、改めて私たちの生きる力の原点、信仰という原点に立ち返って



した。

そして、そのテーマは「常に新しい創造へ」としました。

Ⅱ コリント 5・17に「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです」という聖パウロ

の言葉からとりました。

皆さん、私たちは信仰により、洗礼によってキリストと結ばれた者としていただいたのです。

私たちはキリストと結ばれて「新しく創造され、神を知り、神からの力をいただいている者なのです。」

その生き方のありようは、たった一つと言ってよいでしょう。

「キリストが抱いたと同じ思いを抱きながら歩む」ということです。

この大災害で、いろいろな思いが去来しました。

その一つは「絆」ということです。

被災された方々には本当にお気の毒なことでした。亡くなられた方々の安息をお祈りいたします。今も苦境にある方々には、一刻も早く救援の手が向けられますようにと願います。

私たちはその救援の輪の中にも加わりたいと思います。祈りで出来る人は時間と手を提供して、ボランティア：人間のDNAに

「苦しんでいる人を助けたい」という思いが組み込まれているはずで「新しい創造」である私たちなら、なおさらのことです。

カトリック内の強い絆を感じ、味わっています。

日本の全教区が、仙台教区の救援に司祭やボランティアを派遣してくださっていますし、さらに強力に支援を進めて下さることになりました。男女修道会も継続的に会員を派遣してください。そして、国内ばかりでなく、全世界から救援の祈りや義援金がたくさん寄せられています。本当にありがたいことです。

こうして「私たちは主においてひとつである」と感じています。共に「新しい創造」に向かいひとつになって進んでまいりましょう。

生命の泉

▼大震災の年は、くしくも教区創立75周年と重なった。司教様は「新しい創造」と銘打って未来に向けての歩みを始めようと私たちを励ます。この歩みは教区だけではなく被災地域に住む私たちみんなにとって必須の課題だ。社会的に、家庭にも、自分の意識、生活などすべての面で新しい生き方が求められている。自粛を口実に無気力ではられない。また、わたしたち信仰者にとってはこのような作業は日常的なことではなければならない。なぜなら、神は全てを造り、造ったものを保ち、未来において完成してくださると信じているからだ。私たちはこの世で完結しない人生を生きている。私たちは新しい価値観を持ってこの世に生きている▼宮古・小百合幼稚園年少児さきちゃん(は祖母、妹と共に津波にのまれて短い生涯を終えた。幼稚園が大好きだった少女は制服姿で火葬され56日後に葬儀が営まれた。葬儀の翌日、さきちゃんが幼稚園の砂場で遊んでいるところをクラスの男児が目撃し、「さきちゃんが砂場で遊んでいたよ」と先生に告げた。その後、さきちゃんは仲良しの子と部屋でままごことをしながら「お母さんが迎えにこない」と寂しそうだったと一緒に遊んでいた子が証言したそうだ▼さきちゃんの御両親だけでなく被災した私たちはみんなそれぞれに失ったものを抱えて生きていく。しかし、失ったものは神様と共にある。力強く立ち上がろう。(守)

カトリック宮城県大会

7月3日(日) 仙台市泉区紫山にある仙台白百合学園ロザリオのマリア聖堂で開催された。

今大会は、「仙台教区 新しい創造」の開幕ということもあって、教区全体に呼びかけたこともあり、約700名が参加した。宮城県外からは青森県21名、岩手県61名、福島県39名がかけつけた。また、教会学校の子どもたちや中高生会など60名は、午前中別会場で交流を深めた。

大会は、「ひとつに

なろう」の聖歌で始まり、県連絡協議会会長

佐藤定雄氏の開会の挨拶の後、「新しい創造」と題した映像を見ながら被災者のために祈りをさ

げた。司教あいさつの後、教区事務局長 小松史朗神父から、こ

れからの活動計画についての説明があった。特に「絆のローソク・リレー」(P6参照)や、「スタンブラリー」(準備中)についてみ

なに参加、協力を求めた。次に、大阪大司教区事務局長 神田裕神父の講演(P3参照)で午

前の部が終わった。

午後、平賀司教主司式、20名の司祭による共同司式のミサ。

ミサの説教は、仙台教区サポーターセンター事務局長として活躍

されているカリタスジャパンの成井大介神父(神言会)が、子ども

たちにわかりやすく語りかけた(P4)。

拝領祈願の後、平賀司教の手によって「絆のローソク」が点火され、元寺小路教会の教会委員長 中村信忠氏に手渡された。

宮城県大会実行委員長 原尚幸(豊屋丁教会)氏により、大会宣

言(P5)が読み上げられ、全員の手拍で採択された。

派遣の聖歌は、今回新たに作られた「希望の灯(あかり)」が歌われた。大会は終了した。

参加者の感想

菅野晶子(いわき教会)

いわき教会からは7名が参加した。仙台教区をこごとく飲み込んだ大震災から4カ月が経とうとするこの日、開会の聖歌「ひとつになろう」を歌いながら四果の人々が一堂に会した感動を味わった。

神田神父様の講演。教会

が地震による火災でなくなつて初めて教会ができたと感じたとのこと。困難の中にある時こそ神様がともにいて下さり、我々は主において一つということを実感できるのだ。

高木喜一(西仙台教会)

今年は、裏方の一員として、大会に参加しました。大震災で「千年に一度の」困難を経験し、大会が成立するの、不安を持ちながらの準備となりました。

そして当日、大きな感動に浸りながら、とても充実したひとときを過ごし、これからの仙台教区の活躍に、大きな希望を感じました。炎天下黙々と交通整理を

していたDARCの皆さん、会場を提供してくださった白百合学園のスタッフの皆さん、子どもたちの面倒を一手に引き受けた教会学校の指導者たち、その他大会を見事に成功に導いたたくさんの人たちに、感謝とエールを送りたい。

教区全体にこの熱意が伝わりますよう、深く祈りたいと思います。

宮城県大会をふりかえって

今年の県大会は、始め、教区年の開式行事として開催されることとがすでに一昨年には決まり、県大会でありながら仙台教区の全教会に参加を呼びかけて開催することとなり、順調に準備を進めてまいりました。

しかし、3月11日の大震災で、準備が2カ月近く中断、しかも予定会場も震災で壊れ、変更せざるをえなくなり、かつ、その開催趣旨ががらりと変わってしまった。

今までにはない、短い準備で不手際も多かったこととは思いますが、無事大会が終了し、今回の大会を機会に、教区内の一般の人びとと私たち信徒、すべての人が一つになって「新しい創造」計画の思いが、福島県、青森県、岩手県大会へと一年を通し、伝えることができれば良いと思います。

宮城県大会実行委員会

委員長 原 尚幸



オールジャパンからの仙台教区支援

司教 マルチノ平賀徹夫

東日本大震災発生から4カ月になりますが、被災地の復旧・復興ははかばかしくありません。福島原発の重大事故による放射能の影響も海に陸にますます広がるようで、その収束の見通しが少しでも早く立てられ、早く安心させてもらいたいものです。直接的な手助けをできない私たちとすれば、被災して苦しんでいる方々をいつも思うと共に、復旧に尽力している方々をも少なくとも祈りで応援したいと思います。今一番危惧すべきは、時間とともに関心が薄れることに気づかない、一言でいえば、忘れるということでしょう。

ひと月前、6月13日から17日まで、今年の定例司教総会が開かれました。その前、4月18日付けで「仙台教区『新しい創造』基本計画」が発表され、私は同時に、司教協議会あてにその基本計画で描く復興の歩みへの支援を願う要請文を提出していました。そして総会で司教団はその支援要請に寛大な回答をもって応えてくださいました。オールジャパンで仙台教区を支援しよう、ということです。

その一つは「司祭の派遣」。日本のカトリック教会は16教区からなり、それは東京(6教区)、大阪(5教区)、長崎(5教区)という3つの「教会管区」に分けられます。その3教会管区からそれぞれ1~2名の司祭を仙台教区の小教区教会の司牧支援に派遣しよう、と決めて頂きました。男子修道会・宣教会の連合からの司祭派遣の約束も頂きました。

もう一つは、3教会管区に分かれて分担・担当する被災沿岸部の市町村を支援するというプロジェクトに取り組んでいただく、というものです。具体的にどんな支援が現地で望まれており、どのような支援ができるのか、などはまだわかりません。各管区(教区)から派遣される方が現地で調査し、感触をとらえて、できそうなことを見つけて支援して頂くことになります。そのために、現地の教会の皆さんにも情報提供や案内など、ご協力をお願いしたいと思います。教会の支援活動は行政による活動とは質も量も違います。私たちとすれば、「谷間」に置かれた地域やそこに暮らす人たちの心を生き、寄り添う教会であることをいつも心に留めておきたいと思います。

「おばあちゃんたちと歩んだ大震災」



神田裕神父 講演要旨

宮城県大会の講演は、「阪神淡路大震災」のとき、神戸市のたかとり教会主任司祭として、地域の復興に尽力された神田神父を招き、貴重な体験をお聞きし、「仙台教区 新しい創造」への示唆をいただきたいと企画された。この講演には3人のユニークなおばあちゃんが登場する。1995年の阪神淡路大震災後、神田神父を支えた2人のおばあちゃん、そして神田神父の母方のおばあちゃんの思い出も軽妙な語り口で紹介され、終始満座を沸かせた。キーワードは、「すこし愛して、ながく愛して」。

ハセガワ フサさん

この講演会のタイトルを考え、この講演のタイトルを考えた頃、たかとり教会のおばあちゃん達が折って入院されたので「病者の塗油」を持って見舞いに行きました。丸くなった背中を真っ直ぐにしようと鴨居にぶら下がってたら、折れたということ。おばあちゃん、106歳です。このおばあちゃんには震災の時にすぐ助けられたのでタイトルを「おばあちゃんたちと歩んだ大震災」としました。

震災当時、90歳だったおばあちゃんがある日、「私は材木も担がれんし何の手伝いもできん、でもお祈りだけはできる。みんなのために祈っているからね」と。ところが震災後初の敬老会が来て中止もやむ得ないという時、このお

ばあちゃんが「神父さん、やろう」と言ってくれて、平均年齢81歳の10人のおばあちゃんたちを動員して敬老会の主催者となり、企画から出演までやってのけたのです。それは見事でした。その日はボランティアさんも巻き込んですご盛り上がりしましたね。その後12年を経て、たかとり教会は再建されるのですが、このおばあちゃんたちの縁の下で力持ちの存在があったからこそだと思っています。

タオルの送り主

震災後、少し疲れを感じ始めた頃、全国各地から寄せられた手紙や援助物資が詰まった大きなダンボール箱に埋もれて小包がありました。送り主は大分県の方で「神田さん初めまして。あなたは初めてでしょうが、私は新聞や雑誌、テレビなどいつでも見ているから初めてではありません。気になっっていることがあります。どの写真を見ても首にタオルを巻いています。そのタオルちゃんを洗っていますか」。この手紙と一

緒にいろんな商店名が印刷されたタオルが20本入っていました。老人ホームにいるらしいおばあちゃん達がアチコチからかき集めて送ってくれたようなのです。嬉しかったですね。九州から見てくれてたんだと思うととても気持ちいい。心丈夫になりました。首のタオルが単に汗拭きや寒さしのぎのものではなく、自分に気合いを入れてくれる大切なものとなりました。以来、どんな時でもこうしてタオルを巻いているのです。写真。

母方のおばあちゃん

母方の祖母で名前は「柳さん」。家に来るたびに孫たちに決まって百円くれるので別名「百円ばあちゃん」。私が神学校に入った時はとても喜んでくれて、それからは年に何回か手紙をくれるのです。「元気か。ばあちゃんも元気やで。ほな、さいなら」。文面はいつも3行のこれだけ。そして決まって一万円札が入っていました。6年間コソコソとずっと発信してくれ、私を支えてくれました。おばあちゃんのやさやかな力が実は私の大きな原動力になっていることに気付かれます。量ではなく、小さくても心のこもった行いが実は人の中に大きなエネルギーを生み出すんですね。

震災から立ち上がっていくには、長い時間がかかります。

震災直後は、各地から多くの支援が寄せられますが、時がたつにつれてだんだん忘れられていきます。大切なことは、どこかのウイスキーのCMにあった「すこし愛して、ながく愛して」なんです。

私たちもこの大震災で大変な思いをしている方々に、息の長い愛を届けたいと思います。

神田裕（ひろし）神父略歴

1958年 兵庫県尼崎市生まれ
1988年 司祭叙階
1988年 阿倍野教会
1990年 玉造教会
1991年 たかとり教会（2007年5月まで）
現在 大阪教区事務局長
NPO法人たかとりコミュニティセンター理事長
NPO法人FMわいわい代表
神戸刑務所宗教教誨師

参加者の感想②

上野 隆（西仙台教会）

神田神父様は、先の関西淡路大震災で震災を受けた直後は皆の垣根がなくなった、しかし平常にもどるにつれ垣根がまた出来上がったとおし

司教日程

7月・8月

- 7・3 宮城県大会
- 5・6 東京教会管区会議
- 8 部差別人権委・事務局会議
- 9 推進会議
- 10 三沢教会
- 11 全日本による仙台教区支援会議
- 12 司祭評議員会 司祭団役員会
- 16 部差別人権委・合宿
- 19 あけの星会（仙台）
- 20 責任役員会
- 22 盛岡ドミニカン修道院
- 23 岩手県連絡協議会
- 25 教区司祭団月例会
- 28 岩手カトリック連研修会
- 29 仙台教区サポーター会議
- 8・2 司祭評定例会
- 5 WYD壮行会
- 6 仙台台正平協・平和旬間行事
- 7 平和を求めるミサ
- 17 青森カトリック連研
- 29 30 仙台教区・司祭の集い

やいました。実は私も東北の震災で同じような事を感じました。震災後の買い出しの行列に毎朝並んでいる時、自然に情報交換をする仲間が出来、震災がなければ、話あう事などなかった人々が打ち解けて話をしたのです。今、平常に近い生活をしている私は、この震災で神様が私達にくれたものをもう一度考えなおしてみたいと思う。

「優しい人間になってください」成井神父説教

「私は説教をする時に心がけていることが二つあります。誰にでも聞こえる大きな声で話すこと、子どもがたくさんいる時は子どもたちに分かる話をする。今日はたくさん見えていますので」と成井神父は祭壇の中央から、教会学校の子どもたちの座席まで移動して説教をされた。写真。



「今読んだ福音は温かいメッセージでしたね。『疲れた人はわたしのところにきなさい。休ませてあげよう』(マタイ11・28) 皆さんも今回の地震や津波でずい分とつらい思いをし、疲れたのではないでしょう。

2004年の津波で3万5千人が亡くなったスリランカ

から来た手紙には『日本の皆さん大丈夫ですか。私たちはいつも皆さんのためにお祈りしています。私たちは貧しいのでたくさんお金は送れないけれどこの国で採れたお茶を送ります』と書いてありました。嬉しかったですね。自分が持っているものを少しでも送りたい気持ち、そして津波で受けた苦しみや痛み、悲しみやつらさを味わった自分たちが、今同じことで苦しんでいる人たちに何かしたいの

思い。このような人を優しい人と言いますね。一番優しい人はイエス様ですね。十字架につけられて苦しい、恥ずかしい思いをしたイエス様は皆さんのつらさをよく分かってくれています。皆さんはこの地震で今はつらい中にいるけれど、他人の中の苦しみや痛み、悲しみに気づける優しい大人に成長していつてほしいと思います。いつもイエス様と一緒にいてください。」

成井大介神父

神言修道会司



祭・カリタスジャパン担当秘書・仙台教区サポーターセンター事務局長として立ち上げの時から献身的に活動。

瓦礫からの新しい創造

佐々木博神父

新たな構想こそすべての土台



広大な平野に山積みになって流

れてきた瓦礫を全部片付けるには、後どのぐらいかかるのだろうか。けれども、復興計画、復旧プラン、特に全く新しい町造りなどは、急務であるばかりか、まずなによりも新しい創造の「基本構想」の構築が最優先課題ではなからうか。

教会の新しいありかた

この地域全体にわたる新たな町づくりの構想の中に初めから教会の使命と役割を明確に組み入れるべきである。現状では、教会は地域社会から浮き上がり、地域の人々との接点がほとんどないといえよう。辛うじて幼稚園があれば確かに存在感があるが、地域の子どもたちの保育という糸でむすばれているだけで、そこに教会共同体が入り込む余地があるのだろうか。今回の

人間の尊厳



3・11 その日、命が生きていくための基盤である土地は大きく揺るがされた。その日を機に、我々はより真剣に祈るようになり、人との関係を見つめ直し、自分たちの生き方を考えていくようになった。

そういう中で、イエスが生涯の終わりに「互いに足を洗い合いなさい」と弟子たちの足を洗ったことが思い起こされた。汚れた足に触れる神の手、ペトロはこの聖木曜日の体験にどのような現実を受けとめたのだろうか。

今回の震災の復旧にあたった米軍に感謝の意を伝えようと長さ数メートルの木を仙台空港の浜辺まで引きずって、「ARIGATO」の文字＝欄外写真＝を連ねた人がいた。「苦境にあって懸命に働いている人たちが我々に感謝を伝えようと時間を割いてくれた」と空軍大佐は日本人の行為を受けとめた。そこに人間が神から与えられた賜物が見えた。

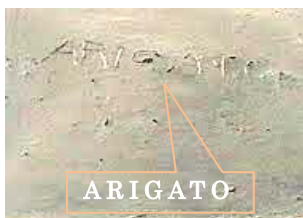
地球を大事にする会 Sr. 佐藤 廣子

地域社会に根ざした教会

教会のボランティア活動は、地域の人々との連帯感が強まり、親しみがわいてきたのではないだろうか。宣教共同体は言葉だけではなく人間同士の血の通った分かち合いであり、交わりである。

この度の大震災は、とにかく、信者と未信者がすばらしい連携プレイができたことは作業の効率を高めるだけでなく、支給された食糧や衣類を共に分かち合ったということ、は、まさに福音の分かち合いの第一歩だった。人は、同じような困難な状況に投げ込ま

れると同病相哀れむではないが、そこにお互いを結びつけるキリストが働いてくださる。たった五つのパンと二匹の魚が5千人以上の飢えを満たしたのは、特に今日の地球規模の食糧問題解決の基本的プログラムではないか。今回の甚大な災害と事故は、教会の地域社会におけるありかたを根本から刷新するためのカイロス(絶好のチャンス)ではないか。



仙台教区サポートセンター活動報告



4月10日(日)
ローマ教皇庁大使・アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教は、被災地慰問のため、仙台教区を訪問された。

元寺小路教会でのミサで信徒に慰めのあいさつをしたいと望まれたが、4月7日深夜に起きた震度6強の宮城県沖を震源地とする地震で、祭壇上の天井が落下し、危険性があるため、聖堂前の広場で野外ミサをささげた。その後、塩釜ベースなどを訪問された。

5月13日～17日
ローマ教皇庁開発援助促進評議会議長・ロベール・サラ枢機卿は教皇名代として、仙台教区および、被災者の慰問のため来仙。いわき市、仙台市、塩釜市、七ヶ浜町、石巻市、松島町を視察したが、特

に、七ヶ浜町、松島町では、海に向かい慰霊の祈り、献花をささげ、亡くなられた多くの方々の安息を祈った写真。

仙台教区サポートセンターの活動

大震災後、5日目の3月16

日に立ち上げられた「仙台教区サポートセンター」は、翌17日から活動を始め、①ボランティアの募集、派遣、宿泊の支援 ②被災者のための一時避難施設の確保 ③心のケア活動を中心に活動を続けています。

現在の活動状況

①ボランティア活動

塩釜教会(3月21日から)、石巻教会(3月24日から)、釜石教会(4月2日から)、米川教会(4月30日)の4教会を、支援の基地として、これまでに1600名を超えるボランティアが活動しています。

◆ボランティア活動の様子

ボランティア活動は、日を追って状況が変わっています。

当初は、津波で浸水した建物(個人宅・工場・倉庫など)の泥出し・洗浄・片付けなどの力仕事を中心でしたが、避難所でのお湯サービス、瓦礫の中から見つかった写真などの洗浄や整理など様々です。泥だらけになつての大変な作業ですが、ボランティアの皆さんは本当に一生懸命作業をしています。

命作業をしています。



泥かき作業の後、長靴やスコップを洗う

活動場所としては、

塩釜教会ベース：塩釜市、浦戸

諸島、七ヶ浜町。

石巻教会ベース：石巻市

米川教会ベース：南三陸町

釜石教会ベース：釜石市・大槌町

②シエルター

北海道から九州に至るまで全国から住居の提供やホームステイなど30件を超えるお申し出をいただいております。

今のところ利用の申し込みは2件だけですが、今後、避難所の閉鎖にともなう希望者が出てくるのではないかと予想しています。

③心のケア

心に傷を負った方々、特に1人暮らしのお年寄りや子どもへの「心のケア」のため、釜石や南三陸では傾聴も行っています。

カトリック宮城県大会 大会宣言

私たちは、本日、カトリック仙台司教区「新しい創造」宮城県大会に参加し、3月11日に発生した東日本大震災を心に留め、改めて振り返る機会を得ることができました。

カトリック仙台司教区はその多くの地域が被災し、私たち一人ひとりが少なからず被災者となりましたが、復興への熱意は消えておりません。

このような中、被災から4ヶ月が過ぎようとしている今、未だに行方不明になられている方、避難所生活をしている方、自宅で生活をしているものの、実質的には避難所生活をしている方が大勢います。

私たちは、本日の宮城県大会を期に、谷間に置かれた被災地域とそこに暮らす人達の心に共に生き、励まし、つなぎ、支え、寄り添う信徒として被災者のために祈りと復興の手助けをしてまいります。

一人ひとりが被災者のことを思い、一人ひとりができることを考え、被災者の心と痛みを共有したいと思います。

私たち信徒は常に「主においてわたしたちは一つ」であることを心に留め自分の力に合った被災地の復興と再生に更なる努力をしながら歩み続けることを、ここに決意し、表明いたします。

2011年7月3日

カトリック仙台司教区「新しい創造」宮城県大会

新しい創造への決意表明・参加者代表
宮城県大会実行委員長 原 尚幸

訃報



フランシスコ・ザビエル
吉田 昌民神父 帰天84歳

6月 日、入院中の光が丘スベルマン病院で帰天された。

葬儀・告別式は、6月 日、元寺小路教会で、平賀司教主

司式で行われた。

吉田師は、まじめな性格で、

長年仙台教区の会計を務め、

教区経済の安定のため大きな

貢献をした。

病に冒されてからは、深い、

静かな孤独を生きぬいた。

〈略歴〉

1927年1月	日生まれ
1960年	日司祭叙階
1961年	元寺小路教会助任
1964年	中南米教会調査視察
1966年	元寺小路教会助任
1967年	古川教会主任
1968年	東仙台教会主任
1970年	仙台教区会計
1989年	会津若松教会主任
1992年	田島教会主任兼任
2001年	湯本教会協力
2004年	四ツ家教会協力
2011年6月	日 帰天



絆のローソク・リレー

「絆のローソク・リレー」は、教区内の小教区、修道院、諸事業体のそれぞれの共同体が絆のローソク（キリストの象徴）をバトンし祈りのリレーをします。

教区は共に歩むことを祈りのうちに確認し、次の小教区へと祈りでリレーをし、1年後の岩手大会7月16日（海の日）までに教区内の全ての施設（小教区、修道院、諸事業体、施設）を廻す。

とわしたち仙台に所属する人々が、ともに「絆のローソク」を灯して、祈りをもって東日本大震災復興計画「仙台教区 新しい創造」を推進する。

①準備会が定める小教区担当主日（ローソク・リレープログラム・左表）のミサの中で「絆のローソクの祈り」を捧げます。

②ミサ後、参加者が「絆のローソク」を囲んで集合写真を撮影します。

③プリントアウトした写真と参加者が「一言メッセージ」を書いて、所定のファイルに収めます。

④責任者は「絆のローソク」と写真とメッセージを収めたファイルを次の「ローソク引渡し先」にリレーします。

⑤次の行き先が「仙台司教館」の場合は小松神父が「ローソク・リレーセット」一式を取りに行きます。

◇「仙台教区 新しい創造」宮城県大会で平賀司教の手によって点火された「絆のローソク」が、仙台教区内をめぐり、無事に2012年7月16日の岩手県大会に到着できるように皆様のご協力をお願いします。

主日のミサの中で、祈りの象徴であるローソクを灯し、東日本大震災で亡くなられた方の永遠の安息を祈り、今なお苦しみの中で復興のために歩む方々



《目的》仙台教区の司祭と信徒、および教区内の関係施設

①準備会が定める小教区担当主日（ローソク・リレープログラム・左表）のミサの中で「絆のローソクの祈り」を捧げます。

②ミサ後、参加者が「絆のローソク」を囲んで集合写真を撮影します。

③プリントアウトした写真と参加者が「一言メッセージ」を書いて、所定のファイルに収めます。

④責任者は「絆のローソク」と写真とメッセージを収めたファイルを次の「ローソク引渡し先」にリレーします。



ローソク・リレーセット入りのバック

ローソク・リレー プログラム

	月日	巡回教会・修道院	(施設関係は略)
1	7・3	●宮城県大会	シャトル紫山・聖パウロ会
2	10	元寺小路教会	シャトル泉・ドミニコ天使園
3	17	八木山教会	
4	24	一本杉教会	ウルスラー本杉
5	31	豊屋丁教会	ウルスラ木ノ下
6	8・7	塩釜教会	
7	14	北仙台教会	ドミニコ北仙台
8	21	西仙台教会	ドミ角五郎・青野木・中島丁
9	28	◎仙台司教館	
10	9・4	古川教会	
11	11	築館教会・新生園→◎司教館	(つなぎ)
12	18	●福島県大会	
13	25	東仙台教会	ラ・サール オタワ愛徳
14	10・2	◎仙台司教館	大阪ヨゼフ 善き牧者
15	9	会津若松教会	南会津教会 雪の聖母
16	16	喜多方教会	無原罪聖母会会津若松
17	23	郡山教会	
18	30	白河教会	矢吹教会 イエスのカリタス
19	11・6	須賀川教会	
20	13	いわき教会	小名浜教会
21	20	湯本教会	
22	27	原町教会	
23	12・4	松木町教会	桑折教会 コングレガション花園
24	11	野田町教会	コングレガション野田町
25	18	二本松教会	
26	25	白石教会	大河原教会
27	31	亘理教会	角田教会
28	1・1	◎仙台司教館	
29	8	石巻教会	
30	15	気仙沼教会	米川教会
31	22	大船渡教会	
32	29	一関教会	千厩教会 ゲオルギオ旭町・山目
33	2・5	水沢教会	
34	12	北上教会	
35	19	花巻教会	
36	26	二戸教会	
37	3・4	遠野教会	
38	11	釜石教会	
39	18	宮古教会	
40	25	◎仙台司教館	
41	4・1	三沢教会	
42	8	十和田教会	
43	15	大湊教会	
44	22	浪打教会	野辺地教会 聖母被昇天青森
45	29	本町教会	松が丘教会 ゲオルギオ聖母園・藤
46	5・6	弘前教会	オタワ弘前・聖母被昇天弘前
47	13	五所川原教会	(次ページにつづく)

「仙台教区 新しい創造」福島県の集い！《予告》

福島県の集い

日時：9月18日（日）10：00～15：30

会場：猪苗代町体験交流館『学びいな』

福島県猪苗代町字鶴田141-1 TEL0242-72-0180

プログラム

- (1)開会式 10：00～10：20
 (2)大震災から復興への歩み ～10：40
 (3)司教メッセージ「新しい創造へ」 ～11：00
 (4)「会津の殉教と召し出し」11：10～12：10
 昼食・交流

(5)各グループの活動

- ①会津殉教地を巡る
 ②会津郷土料理、文化、歴史を学ぶ
 ③聖歌を歌う
 ④子どもと共に、若者と共に

- (6)ミサ 14：30～15：20
 (7)閉会式 15：20～15：30

また、東
 るよう、
 とができ
 近づくこ
 決の道へ
 っ、解
 祈りによ
 一致した
 私たちの
 ませんが
 かもしれ
 いもある
 複雑な思
 開催には
 島県の方
 福島の被
 原発の被
 ひふるつ
 宮城、岩
 宮城の方
 福島県
 としてあ
 （詳細は
 プに分か
 があり、
 を締めく
 （詳細は
 内全小教
 してある
 ください）

盛大に、そして感動的に行われた教区年記念宮城県集い、ほんとうにありがとうございました。続いて、9月18日には磐梯山麓の猪苗代町で、「仙台教区 新しい創造 福島県の集い」が行われます。

テーマは宮城県と同じ「常に新しい創造へ」主において私たちは「ひとつ」です。午前中は被災地のための祈り、会津の殉教者を偲ぶ時間として計画しています。昼食の分ち合いの後の午後は、会津の殉教地を実際に巡ったり、会津の郷土料理を楽しんだり、



宮城、岩手、青森の皆様もぜひふるってご参加ください。原発の被災地を抱えている福島県の方々はもちろん、宮城、岩手、青森の皆様もぜひふるってご参加ください。原発の被災地を抱えている福島県の方々はもちろん、

シンポジウム 「新しい創造に向けて」

（カトリック平和旬間行事）

東日本大震災では、たくさんの尊い命とかけがえのないものを失ってしまいました。

震災から3ヶ月が経ち、仮設住宅で新しい生活をはじめた人たちが、いまだに避難所から動けずにいる人たちが、放射能の被爆によってふるさとに戻ることができない人たちが、いまだに先が見えない状況が続いています。

こういう中であって、私たちの教会は何をすることができのでしょうか。

カトリック仙台司教区長の平賀徹夫司教は4月18日、復興に向かつて、「新しい創造」というタイトルでの基本計画を発表しました。

今年のカトリック平和旬間行事として、東日本大震災を生き抜いた私たちが復興に向

北全体の被災者のために、心を合わせて祈ることができると集いにしたいと思います。

宮城の集いありがとうございます。そして仙台教区民として猪苗代「写真」でまたお会いしましょう。

福島県信徒連絡協議会

会長 佐藤 大

かうために、震災から何を学び、何を創造していかなければならぬのか、ともに祈りながら、分かち合いたいと思います、今回のシンポジウムを企画しました。ご参加をお待ちしております。

講演 平賀徹夫司教 「新しい創造」基本計画についてー背景となる気持ちー

発言ー被災体験を通して教会について思ったこと

被災地から／支援者として／教区として

日時 8月6日（土）14時

会場 カトリック元寺小路教会大聖堂

参加費 無料

主催 カトリック正義と平和仙台協議会

和仙台協議会

子どもたちの「祈りの集い」

6月25日（土）仙塩地区教会学校の子どもたちが畳屋丁教会に集まり、初めての「祈りの集い」を行いました。ホセ神父様、浦野神父様、長谷川シスター、教師会リーダー、子どもたちと保護者が総勢40名で聖体について勉強し、聖体礼拝をしました。ミサとはまた違った厳かな雰囲気を感じたようです。

この集いは、勉強するテーマを変えて、今後各小教区を訪ねたり、殉教の碑を訪れたり来春までに3回の集いが計画されています。次回は11月に八木山教会で予定されています。たくさんの子供たちの参加をお待ちしています。



ローソクリレー プログラム

月日	巡回教会・修道院（施設関係は略）
48 20	黒石教会
49 27	鮫町教会
50 6・3	八戸塩町教会 ウルスラ塩町・田面木
51 10	●青森県大会
52 17	久慈教会
53 24	◎仙台司教館
54 7・1	上堂教会
55 8	志家教会 ロザリオの聖母ドミニカ
56 15	盛岡四ツ家教会 シャルトル盛岡
57 16	●岩手県大会



「仙台教区 新しい創造」 支援Tシャツ

綿100% 白地

サイズ S・M・L・XL

¥1,500

売上金は「東北関東大震災仙台教区支援金」として仙台教区内の教会及び、教会関係の諸施設の復興と被災した信徒及び、その家族の支援のために使われます。

申し込み：お名前(団体名)・住所・電話番号

サイズごとの枚数を明記し、仙台司教区事務局へ

FAX 022-222-7371

*発送に1週間程かかることもあります。

代金は、到着後、振り込み用紙でお支払いください。

東日本大震災 チャリティー カレンダー 「北を祈る」を発行

以前教区報で紹介した東京在住の歯科医師でカメラマンの伊藤龍也さんが、東日本大震災の義援金募集を目的にチャリティーカレンダーを企画・発行します。

カレンダーには、大船渡・二戸・築館・弘前・大河原・鶴岡・気仙沼・宮古・松木町など13の教会や修道院が登場し、ケセン語訳聖書から引用された12の聖句も掲載されています。1部2,000円。このうち1,000円がカトリック仙台教区やカリタスジャパンに寄付され、残金は制作費とイー・ピックス社の復興資金に充てられます。お問い合わせ：カトリック大船渡教会熊谷(イー・ピックス出版代表)まで

(電話090-2368-9112 E-mail/masaya@epix.co.jp)

に、責任重大
たはずなの
に引き受け
もりで気軽
手伝いのつ
田中師のお
依頼された
くださいと
げてやって
会を立ち上
で広報委員
い人を選ん
事をしやす
が一緒に仕
い。あなた
をして欲し
を。あなた

以来、試行錯誤、紆余曲折を繰り返しながらの日々であったが、佐々木博師、佐藤守也師のご指導と広報委員のチームワーク、各地の皆様が寄せて下さる原稿や写真に助けられ、徐々に内容も充実してきたと勝手に自負している。大震災によって大きなダメージを受けた仙台教区の絆を深め、元気で生き生きとした仙台教区となることを願いながら、よりよい「教区報」の発行に努めていきたいと思ひますので、今後も皆様のご支援をよろしくお願い致します。

仙台教区 広報委員長

岩井 誠(一本杉教会)



い生き方、愛に満ちた生き方を惜しみ永遠の安息を祈った。

洗礼者ヨハネ佐藤憲一氏帰天
佐藤憲一さんは、30年以上も米川教会の信徒会長として献身的な働きをし、他方地域振興やスポーツ振興、商工発展の面でもリーダーシップを発揮しました。昨年8月癌の告知を受けながらも働き続け倒れる寸前まで震災ボランティアとして黙々と活動が続けていたが、6月21日帰天した(65歳)。

葬儀ミサは、6月25日、米川教会で高橋昌神父の司式で行われ約300名が参列し、氏の男らし

「仙台教区報 200号」に寄せて

「カトリック教区報」は、本号をもって200号に達した。「だから何だ…」と言われている、一つの通言葉もないが、一つの通過点でもある。

「仙台教区報」の前身は、函館教区時代から発行されていた「炬火」で、これはドミニコ会から発行されたもので、教区報193号から197号までの紙面で一部紹介した。

「仙台教区報」バックナンバー第1号として教区事務局に保存してあるものを見ると「仙台司教区教区事務局所だより(第1号)」として1976(昭和51)年5月30日の世界広報の日を機に発行されたものがある。当時は、教区長が佐藤千敬司教で司教総代理に土井文雄師、書記長兼会計には、今年6月10日に亡くなられた吉田昌民師が担当していた。さらに、事務広報担当として聖パウロ女子修道会のSr.徳武はつ江が加わったことで第1号の発行となった。当時は、和文タイプで一字ずつ原紙に打ち込み輪転機を回して印刷したもので、文字が薄れているところもあるが、手作りならではの味がある。

「事務所便り」は、第5号から三浦平三師により「仙台教区報」と表題が改められ現在に至って

「事務所便り」は、第5号から三浦平三師により「仙台教区報」と表題が改められ現在に至って

「事務所便り」は、第5号から三浦平三師により「仙台教区報」と表題が改められ現在に至って

「事務所便り」は、第5号から三浦平三師により「仙台教区報」と表題が改められ現在に至って

「事務所便り」は、第5号から三浦平三師により「仙台教区報」と表題が改められ現在に至って

告知板

◆3. 11から始まったこと

—東京電力福島第一原子力発電所原発震災を 生きる私たちへの提言

講師：小出裕章(京都大学原子炉実験所助教)

日時：8月5日(金) 18:00~21:00

会場：ハーネル仙台 3F 蔵王の間

仙台市青葉区本町2-12-7

資料代：700円

*託児施設あり(有料・先着20名 要事前申込)

主催：小出さんをよぶ会 in 仙台

要予約：022-373-7000(谷関) / 022-278-8824

(斎藤) E-mail takahashi@mizunet.org

賛同団体：カトリック正義と平和仙台協議会／

みやぎ脱原発・風の会／放射線被曝から子ども

を守る会／その他多数

◆後藤寿庵400年祭 ～胆沢平野開拓の祖～

日程：2011年9月11日(日)

10:30 行列・胆沢土地改良区集合

11:00 ミサ・後藤寿庵記念廟前

13:00 記念式典・後藤寿庵記念廟前

15:00 記念講演・(Zホール)溝部脩司教

16:30 祝賀会(プラザイン水沢)